

中国地方における道の駅等を拠点とした自動運転サービス実証実験について
 ～道の駅「赤来高原」における取り組み～

復建調査設計株式会社 総合計画部 安達 誠

1. はじめに

国土交通省では、道の駅など地域の拠点を核として、自動運転車両を活用することにより、日常の生活の足の確保、物流の確保、地域の活性化等の地域生活を維持し、地方創生を果たしていくための移動システムを構築することを目指して、「中山間地域における道の駅等を拠点とした自動運転サービス」実証実験に取り組んでいる。


本稿では、道の駅「赤来高原」での自動運転サービス実証実験について紹介する。

2. 実証実験概要

①実験車両

アイサンテクノロジー株式会社の協力の下、「車両自律型」と呼ばれる車両を用いた。

表-1 実験車両の概要

車両	トヨタエスティマ
乗車人数	2列シート仕様（4人乗車タイプ） 乗客2名+ドライバー+オペレータ
車両概要	
走行速度	40km/h 程度（最大45km/h） （交差点、一部区間は10-20km/h）

本車両は、事前に作製した高精度3次元地図を用いて、車両上部に設置したLIDAR（ライダー）で周囲の構造物等を検知しながら規定ルートを走行する仕組みとなっている。

②走行ルート

ドライバー席を無人としたレベル4走行の検証を行うAルート（約1.8km（うち専用空間0.6km））、公道において一般車両と混在するレベル2走行の検証を行うBルート（約3.9km）の2ルートで実験を行った。

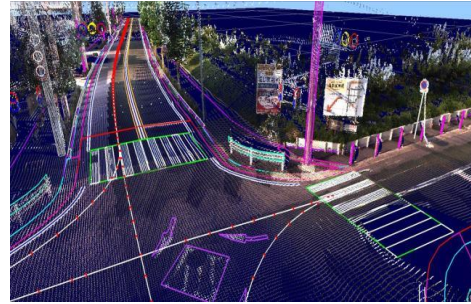


図-1 自動運転用高精度3次元地図
 （アイサンテクノロジー（株）提供資料）

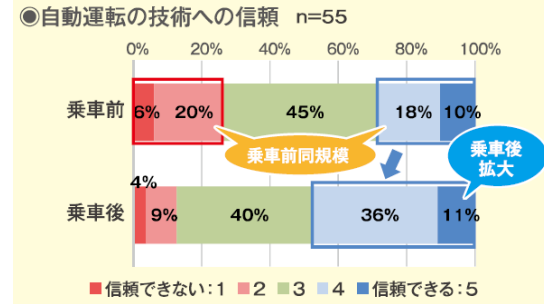
3. 実験結果

2017年11月11日（土）～17日（金）の7日間において、住民モニター56名と一般モニター約70名の合計126名が乗車した。

実験車両への乗車前後で実施した住民モニターアンケートの主な結果を以下に示す。

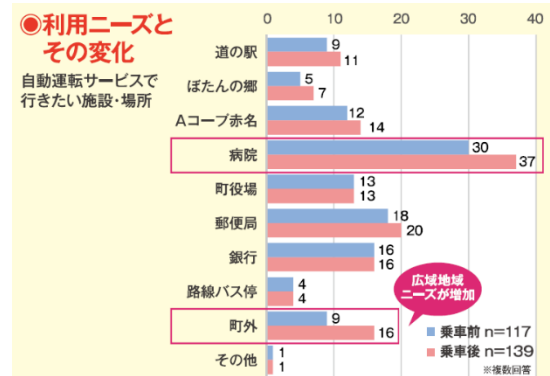
①社会受容性

実際に自動運転車両に乗ることで、利用意向や、技術への信頼が向上している。



②利用ニーズとその変化

通院や町外への移動に対するニーズが実験後に高まっている。



（出典：中国地方における道の駅等を拠点とした自動運転サービス実証実験支援業務、松江国道事務所、2018年9月）